

きじむんのとら～ちゅいむに～ 十二支編

第10回：寅^{とら}

キーワード 寅・虎・虎と猫の話・虎を追い出せ・虎旗



ハイタイ&ハイサイ キジムンヤイベーン！ 明けましておめでとございます!! 今年は亥年ですが、新年のトピックは「寅」からスタートです。

さて、子(ね)から始まる十二支の第3番目に来る寅(とら)。時間帯は午前3～5時ごろ、方角は東北東にあたります。「寅(とら)」は「𤝵(イン・エン)」が本来の字で、春の草木が萌え出る状態を表しています。「虎」は獣のトラを表しています。

密林の王と称される虎は、かつては山の神・霊獣として崇められるような、神秘的なイメージでみられることもありましたが、沖繩の昔話の世界では、こんな虎もいたのです…



① 琉球大学附属図書館蔵・西脇絵葉書集No.27
※海側からみた波之上宮の写真(虎と猫が戦った場所?)

一休さんのとんち話に似た話も、沖繩に伝わっているようです。

●虎を追い出せ

知恵者といわれている人が、ある偉い人からこういわれました。「床の間の屏風の虎を縄でしばってみろ」

知恵者はこう答えました。「しばってみせるから、屏風から虎を追い出してくれ」

偉い人は、ぐうの音もでませんでした。

【参考文献】

稲田浩二・小澤俊夫編『日本昔話通観』第26巻 沖繩 P776・PP.873-874(同朋舎出版 1983)

【参考資料】

「琉球人行列図(錦絵)」5枚のうち4枚(版元不明 1832)

●虎と猫の話

昔、虎は体が大きいのに、弱虫でした。虎は強くなりたくて、猫の空手の先生に弟子入りしました。虎は空手が上達するにつれ、威張りちらすようになりました。

ある日虎は師匠の猫に試合を挑み、虎と猫は波之上で勝負することになりました。

虎が挑みかかると、猫は崖に向かって突き出した松の木に、サッと飛び乗りました。日頃から弟子である虎の態度をみていた猫は、木の登り方だけはわざと教えていなかったのです。

にらみ合ったまま時間がたち、しびれを切らした虎は「ずるいやつめ！ だがお前はいつまでも木の上にいる訳にはいかないだろう。お前が木から降りたら、糞のにおいでお前の居場所がわかる。その時には見つけて食ってやる」と捨て台詞を残して立ち去りました。

その日から、猫は糞をしたあとは必ず土をかけて隠すようになりました。また、虎も木登りを教えてもらわなかったため、今でも木に登れないのだそうです。

最後に江戸立行列の虎の旗↓を紹介します。これにて今月の話はおしまい。来月をお楽しみに！(NK)



おいらは虎。背中に羽がはえるよ。天保三(一八三二)年の十六回目の江戸立(えとたち)についていったんだ！